

町文化センターで行われた訪問団の壮行式



コンコードで 充実の研修を 「七飯の魅力伝えたい」

【七飯】町の姉妹都市・米国マサチューセッツ州コンコードへの町海外交流研修訪問団(杉原太団長、団員14人)の壮行式が26日、町文化センターで開か

訪問団式 壮行

れた。訪問団は28日から11月7日まで11日間、コンコードでホームステイなどしながら現地の文化に触れ、交流を深める。(野口賢悟)

訪問団は七飯中、大中山アドバイス。続いて各校の中、大沼中と七飯高校の生徒8人に引率教諭、農業後継者の町民代表3人に杉原

団長、町国際交流員でコンコード出身のクリス・ハウエルさんの計14人。訪問団はコンコード滞在中、カーライル高校で授業や部活動を体験するほか、

ハロウィンパーティーに参加。町民代表は現地農場の視察や経営者との意見交換などを通じ、現地の農法などを学ぶ。訪問団はこのほか、研修終盤にニューヨークに滞在し市内見学を行う予定。

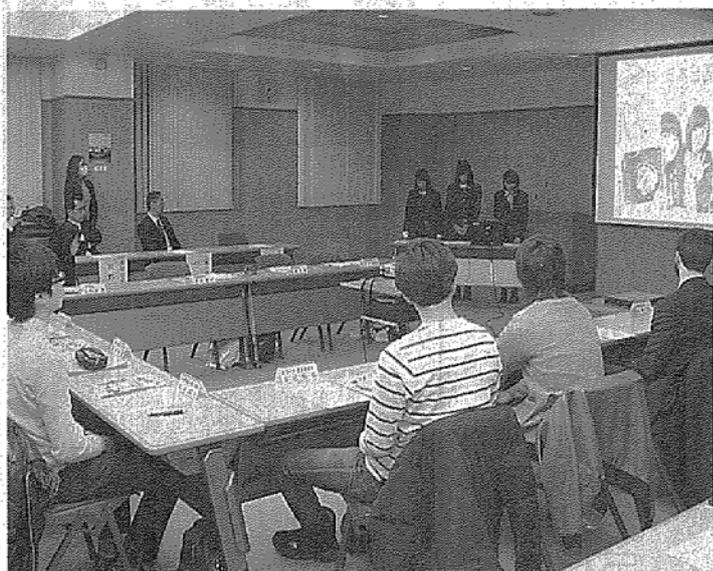
壮行式で中富安一町長は「黙っていてもできない。言葉の間違いを恐れないで、積極的に話し掛けてください。貴重な体験をしっかりと楽しみ、多くのことを学んで帰ってきて」と

いた。式の最後には中富町長から訪問団に、ホームステイ先の家族へ手渡しお土産として、地元のマスコットキャラクター「ポロトくん」と「ポントちゃん」のエコバッグが手渡された。大沼中2年の福川冬真君(13)

は「初の海外なので不安はあるが、自分が成長できるいい機会。滞在中は積極的に英語で話し掛け、視野や見聞を広げたい」と話して

体験を通じ成長した姿披露

海外交流研修訪問団の事後報告会



日本文化との違いを紹介

【七飯】町と姉妹都市を結ぶアメリカ・マサチューセッツ州コンコードへ派遣された海外交流研修訪問団(団長・杉原大総務部政策推進課長、団員14人)の事後報告会が1日、町文化センターで開かれた。保護者や町民が見守る中、団員らは研修期間中の生活の様子や、学んだことを発表した。

(野口賢清)

「経験生かし、チャレンジを」

訪問団は七飯中、大中山中、大沼中の生徒に加え、七飯高生、農業後継者の町民代表らで構成。昨年10月28日～11月7日の11日間、コンコードやニューヨークに滞在し、地域交流などを実施してきた。

はじめに與田敏樹教育長が「皆さんは一般的な観光旅行では経験できない、素晴らしい体験をされたと思う。ぜひ今回の経験を生かして、大きな夢に向かってチャレンジしてほしい」とあいさつしたあと、早速報告会を実施した。七飯高校生3人による発表では、自分たちで撮影した写真を披露しながら、ホストファミリーの紹介に始まり、滞在中体験した出来事、施設の様子などを説明。カーライル高校での生活では、「朝7時までに学校へ行かなければいけないのは驚いた」といったほか、実際に授業に参加した際には「教科書は先生のプロジエクターで、自分のノートパソコンをノートとして使い、授業中に飲み物を飲んだり教室を出て行ったりした生徒がいた」と日本との違いを紹介した。

また、中学生や町民代表は「一問一答で報告。研修を通じて得た今後の目標を聞かれると、「いつかまたコンコードを訪問し、お世話になったホストファミリーに、自分が大きくなった姿を見せてあげたい」などと話していた。このほか、杉原団長によるコンコードの紹介が行われた。

後報告会